

◆第5次釜石市子どもの読書活動推進計画 概要版◆

◇基本理念 かまいし読書プラン2025「本との出会い 広がる世界」～自分さがし、踏み出す一歩～◇

第1章 計画改訂にあたって

1 計画改訂の趣旨

子どもたちが読書活動に魅力を感じ、主体的に取り組むことができる環境づくりを進めるため、家庭・地域・学校・行政(図書館等)のそれぞれの立場における取組について改めて整理し、長期的な施策を総合的かつ計画的に推進を図ろうとするもの。また、釜石市では新たに全市的な施策として「本のまちプロジェクト」にも取り組む。

2 計画の性格

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき国が策定した「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「第5次岩手県子どもの読書活動推進計画」を参考に市の方針を定めたもの

第2章 子どもの読書活動の意義と国・県の動向

意 義	「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年12月) 読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に着けていくうえで欠くことのできないもの」
	「PISA2018(生徒の学習到達度調査/OECD)」 読書に肯定的・読書頻度の高い生徒⇒読解力が高い傾向。 「読書活動の効果に関する調査研究(国立青少年教育振興機構/令和3年3月)」 読書に肯定的・読書量多い人⇒意識・非認知能力等(意欲、自信、忍耐、自立、自制、協調、コミュニケーション力等の心の部分)が高い傾向
義	急激な社会構造や環境の変化⇒情報を見極め新たな価値・目的の再構築が求められる。 ICT(情報通信技術)の利用 メリット) あらゆる分野の多様な情報に容易に触れることが可能。 デメリット) 視覚的な情報と言葉の結び付きが希薄化、知覚した情報の吟味、文章の構造や内容を的確に読み解くことが減少している(指摘)
	↓
国 の 動 向	新学習指導要領 読書活動は、精査した情報を基に考えを形成し、表現する「新しい時代に必要となる資質・能力」を育む点からも重要性が高まっている。
	「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」令和5年3月策定 第四次計画における課題として、子どもの不読率がいずれの学校種においても計画で定めた進捗で改善されていないことを挙げており、そのことに対する主な方策は次のとおりとしている。 ① 発達段階に応じた取組により、読書習慣を形成すること ② 友人同士で行う活動を通じ、読書への関心を高める ≪基本方針≫ ① 不読率の低減 ② 多様な子どもたちの読書機会の確保 ③ デジタル社会に対応した読書環境の整備 ④ 子どもの視点に立った読書活動の推進
岩 手 県 の 動 向	「第5次岩手県子どもの読書活動推進計画」令和6年3月策定
	県の現状、国の取組等を踏まえ、岩手の子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、次の基本的な考え方のもと、子どもの読書活動の推進に取り組むとしている。 ① 家庭・地域・学校及び関係機関の連携協力(「教育振興運動」など) ② 多様な子どもの読書活動を支える人材育成(ICTの効果的活用、電子書籍の整備) 教師・保育士・学校司書・図書等に対する研修内容を見直し、スキルの向上を図る ③ 子どもの読書活動推進における普及啓発 ④ 発達段階に応じた読書環境整備

第3章 これまでの取組とその検証

市の第4次計画に基づき家庭・地域・学校・行政(市立図書館等)が各々の立場から様々な取組を行った。その成果と課題は以下のとおり。

行政・家庭	<p>成果：市が対象年齢に応じた取組、積極的な周知啓発を行い活動推進の理解が深まった。教育振興運動との連携で「ノーメディアデー、家読等」が展開された。</p> <p>課題：年齢が上がるにつれて読書をする子どもの割合が減少する傾向。発達段階に応じた取組を工夫しながら行う必要がある。</p> <p>司書教諭の適正な配置及び図書担当職員の負担軽減が不可欠。</p> <p>保護者の理解促進を図るため継続した取組が必要となる。</p> <p>習い事等の兼ね合いにより読書時間を確保することが難しい。</p> <p>ゲーム、タブレット端末に時間を割く傾向が増えている。</p>
地域	<p>成果：ボランティア等の各種取組、学校や図書館と連携した読み聞かせ等の活動により読書活動の重要性が認知された。教育振興運動と連携した取組が展開された。</p> <p>課題：ボランティア活動が定着したが、十分な活動推進に見合った会員数ではなく、更なる会員獲得が必要。スキルアップ、ネットワーク形成のために関係機関との連携が必要。</p> <p>ボランティア以外、地域との関わりが少ない。地域と連携した事業の企画が望まれる。</p> <p>学校図書館、市立図書館以外にも本に触れられる環境づくり。</p>
学校等	<p>成果：各校の積極的な各種読書活動及びボランティアの読み聞かせ、図書室内の掲示等による読書のきっかけづくり・定着化が図られ、子ども達が図書室を訪れやすくなった。</p> <p>課題：中学校、高校におけるボランティア活用の促進が必要。</p> <p>有資格者の育成に努めていく必要がある。</p> <p>読書の意義を理解し、主体的な読書を展開する仕掛け(企画)が必要。</p>
市立図書館	<p>成果：親子、または子どもたち同士で積極的に図書館を利用する姿が見られた。小学校の施設見学が定着化しつつある。</p> <p>課題：学校や地域と連携して読書の楽しみや意義を普及・啓発するとともに子どもたちと本をつなぐ取組の充実を努め、質、量のバランスが取れた児童図書の整備に努める。</p> <p>小学校の施設見学を活用し、図書館登録の推進を図る。</p> <p>視覚障がい者、遠隔地、多様な子どもたちへ公平な読書機会の確保(デジタル化)の検討</p>

小・中学生の読書状況 ※令和元年～令和6年「岩手県子どもの読書状況調査」

1 「読書がとても楽しい」「どちらかというと楽しい」と感じる児童生徒の割合(%)

- 岩手県)・小・中・高校生とも読書活動に肯定的で80%台をキープ。ただし緩やかに減少傾向。
- 釜石市)・小・中学生の全年度(R1及び高校生データなし)で県平均以下。読書に対する肯定感も減少。
- ・R6年度、小学生が直近5年ではじめて80%以下に。県平均からも10ポイント下回る
 - ・中学生は概ね70%台で推移。各年度とも県中学生平均・県高校生平均も下回る。
 - ・「3の不読率」の指標で、近年小学生の不読率が0%で推移。ただし、読書肯定感が県平均に比べ低いため読書の在り方(楽しくなる方策)を考える必要あり。
 - ・読書が「楽しいか否か」の指標は、読書活動推進の「核」となる部分であり、改善方策を5者(子ども・家庭・地域・学校・行政)が連携して読書活動推進に取り組む必要あり。

2 1か月の平均読書冊数経年変化

- 岩手県)・平成25年度から概ね増加傾向～R4以降は全校種で漸減に転じた。
- 釜石市)・小学校＝令和5年度以外は県平均をわずかに下回る。
- ・中学生＝県中学平均より常に0.5～1.6冊程度少ない状況。

3 不読者(1か月で1冊も本を読まなかった児童生徒)の割合

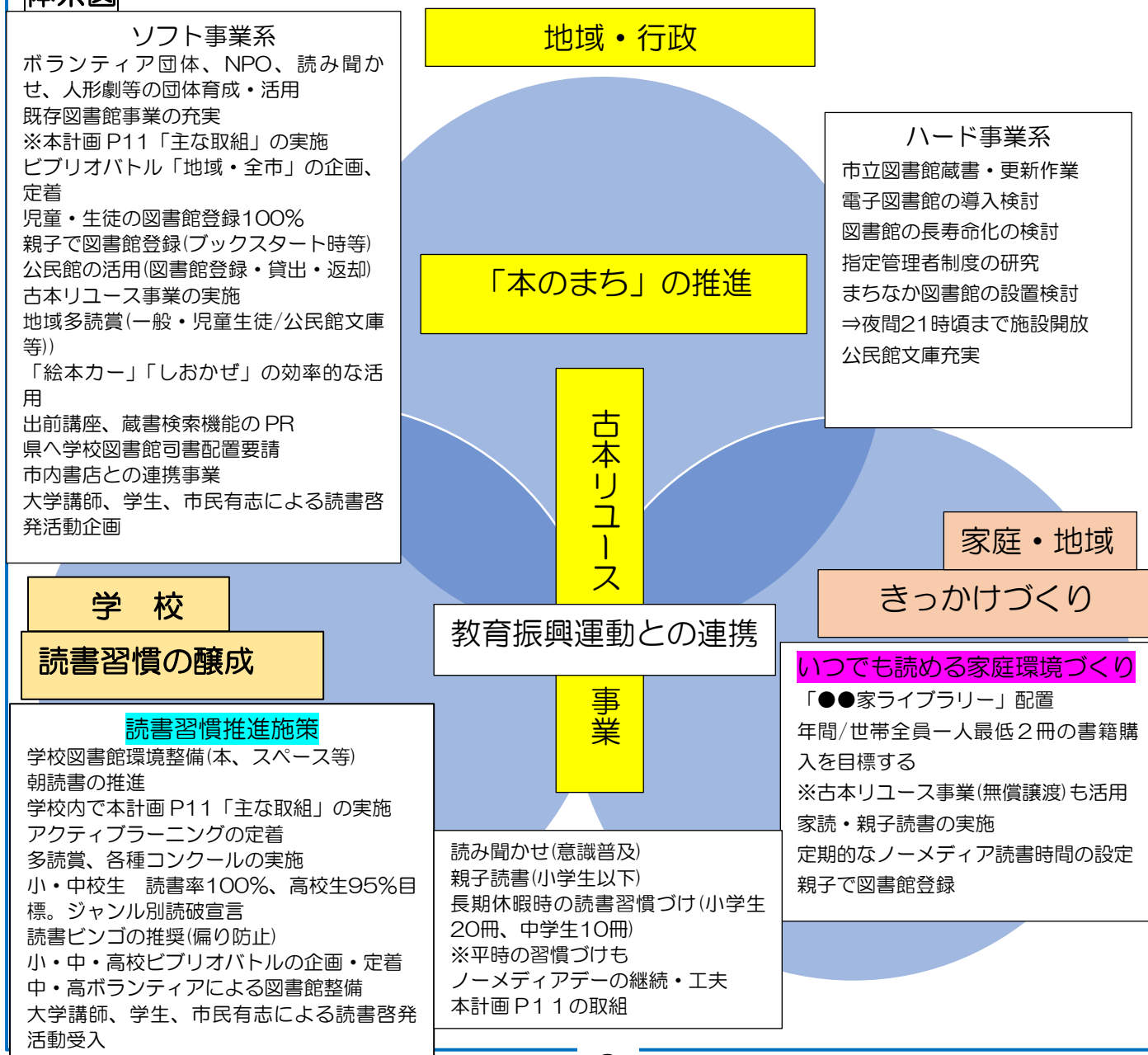
- 岩手県)・R4以降、高校生の不読率が上昇。小中学生は、横ばいから上昇傾向にある。
- 釜石市)・小学校＝不読率 R4～R6 は 0%。中学生＝県平均を下回ったのは R4 のみ。
- ・中学生の数値が激しく変動している。R1・R6 は高校生の県平均よりも不読率が高い。

第4章 計画の目標と具体的取組

1 基本理念、基本方針、計画の体系

基本理念	「本との出会い 広がる世界」～自分さがし、踏み出す一歩～
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが本に親しむ環境づくり 2 家庭、地域学校等における子どもの読書活動の推進 3 読書活動に関する啓発・広報の推進 4 読書活動に関する設備、資料及び諸条件の整備・充実 5 関係機関との連携・協力で広がる読書活動ネットワーク

体系図



1 子どもが本に親しむ環境づくり

- 子どもの読書活動を支え導くのは、保護者であり、教員であり、大人社会全体である。周囲の大人が、読書の素晴らしさを自ら体験しながら、その魅力を子どもたちに伝えていくことが重要。
- 子どもが本に魅力を感じながら自主的に読書活動に取り組み、習慣として形成・定着するためには人的環境づくり（育成や活用）や物的環境づくり（設備、資料等の整備充実）が欠かせない。
- 乳幼児期からの発達段階に応じた子どもの読書活動の意義について、市民一人ひとりが理解と関心を深めながら、社会全体で読書活動を推進する機運を高めていくことが重要。

2 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

家庭・学校・行政	<p>◆役割</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもが読書に親しむきっかけを作り、子どもの読書に対する興味や関心を引き出す。 • 一方的に読書を「させる」だけでなく、保護者も「ともに取り組む」。 <p>◇推進の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもが本を身近に感じる環境を作るとともに家族が一斉に読書をする時間を設け、読み聞かせを行う。 • 市立図書館を家族で利用する機会持つなど子どもの発達段階に応じた取組を継続的に行う。 • 家族で読書を通じて感じたこと考えたことを話し合い、読んでいる本を紹介し合う。 • 居間に「●●家ライブラリー」を常設。気が付けば身近に本があり、ステージが進めば親の愛読書を手取るなど、家庭内の読書活動を循環させる環境づくり。 • 本計画 P11 の取組みの推進。 • 「児童・生徒の市立図書館登録率100%」「不読率0%」の数値目標はあくまで結果。読書の本質「楽しく、自分を豊かにする」という肯定感を感じ取ってもらう。現状では出会いが少なくスタートラインに立てていない子どもが多い。一生の友を得るための方策を考える。 • ブックスタート事業の開催場所を「各地区公民館」にも拡大する
地域	<p>◆役割</p> <ul style="list-style-type: none"> • 読み聞かせ会や人形劇の公演など子どもが本に親しむ様々な機会を提供する。 • 「地域学校協働活動」のひとつとして取り組まれている読み聞かせや図書館の環境整備、本の修理の継続・充実。 <p>◇推進の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「教育振興運動」をはじめ、様々な地域学校協働活動の取組による、子どもの発達段階に応じた本との豊かな出会いの創出。 • ブックトーク、ビブリオバトルなど(本計画 P11)子どもの読書への関心を高める取組の実施。 • 図書館の廃棄本、市民からの譲渡本を「古本リユース事業」として、各施設、学校、公共施設、民間施設に配置するほか、イベント時の希望者に贈呈する。(経済負担の軽減)
市立図書館	<p>◆役割</p> <p>日常業務として子どもの読書活動に携わっている機関であり、計画推進に欠かせない施設。</p> <p>◇推進の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> • 魅力的な図書展示を継続的に実施し、ボランティア等との連携のもと子どもが参加できる事業を展開する。 • 児童が本を借りる際にアドバイスをを行い、図書の案内や利用方法の周知を図るなど利用しやすい環境づくりに努める。 • 職員に必要な知識・技能等の習得に努めるとともに、ボランティア活動の促進を図るため情報提供や養成研修の実施など諸条件の整備に努める。 • 図書館から遠距離に居住する市民に有効な「移動図書館車」によるサービスの利用促進を図るとともに、幼児施設への巡回や団体貸出しの充実に努める。併せて効率性の追及を行う。 • 乳幼児期から本に親しむ環境づくりのため、ブックスタート事業を継続・常設化するとともに、児童生徒の施設見学や職場体験の受入れに努める。その際に図書館登録をしてもらう。 • 施設の長寿命化、電子図書館の検討

策定した計画の進捗及び子どもの読書状況を概観できる指標を以下のとおり設定し、目標値の達成に向けて取り組みます。なお、目標値は設定しないものの、子どもの読書状況調査等各種調査データを把握し、評価検証を行うとともに、各主体における取組に生かしていきます。

上段：県内 下段：市内

指標の名称	「読書が楽しい」と感じる児童生徒の割合						
内 容	県内・市内公立小・中学校及びにおける「読書が楽しい」と感じる児童生徒の割合(%)						
調査方法	毎年10月の1か月間を対象に、小学5年生、中学2年生を対象に調査(各校1学級)						
目標数値		R6	R7	R8	R9	R10	R11
	小学校5年	85% 76%	90% 85%	90% 90%	90% 92%	90% 94%	95%
	中学校2年 (義務教育学校8年)	81% 74%	85% 80%	85% 82%	85% 85%	85% 88%	88%
	高校2年	85% 85%	85% 87%	85% 88%	85% 88%	85% 88%	90%

指標の名称	読書を行った児童・生徒の割合						
内 容	県内・市内公立小・中学校における読書した者(1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合(%)						
調査方法	毎年10月の1か月間を対象に、小学5年生、中学2年生を対象に調査(各校1学級)						
目標数値		R6	R7	R8	R9	R10	R11
	小学校5年	99% 100%	99% 100%	99% 100%	99% 100%	99% 100%	100%
	中学校2年 (義務教育学校8年)	95% 72%	95% 85%	95% 90%	95% 97%	95% 98%	100%
	高校2年	90% 90%	90% 90%	90% 90%	90% 92%	90% 92%	92%

指標の名称	児童・生徒の1か月の平均読書冊数						
内 容	県内・市内公立小・中学校における読書者(1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合(%)						
調査方法	毎年10月の1か月間を対象に、小学5年生、中学2年生を対象に児童生徒の1か月の平均読書冊数(冊)						
目標数値		R6	R7	R8	R9	R10	R11
	小学校5年	18冊 15冊	18冊 20冊	18冊 20冊	18冊 20冊	18冊 25冊	25冊
	中学校2年 (義務教育学校8年)	5冊 4冊	5冊 5冊	5冊 5冊	5冊 7冊	5冊 7冊	10冊
	高校2年	3冊 3冊	3冊 3冊	3冊 5冊	3冊 5冊	3冊 5冊	7冊

※岩手県数値は、第5次岩手県子どもの読書活動推進計画(策定期間 R6~R10)のため。